

この町は あなたが住む町 つくる町 神川町議会

かみかわ町議会だより



やまとたけるのみこと

おおよまつみのみこと

「日本武尊が東征の折、神山に大山祇命を祀ったのが始まりと伝えられる」

矢納 城峯神社

(撮影者「フォーカス友の会」高柳智子さん)

- 平成24年度神川町一般会計補正予算（第6号）など
補正予算を可決
- 神川町公共下水道の構造の技術上の基準等に関する
条例など可決

第 **29** 号

平成25年3月1日発行

編集 神川町議会運営委員会
発行 埼玉県児玉郡神川町議会

〒367-0292 児玉郡神川町大字植竹909
☎0495(77)0707 <http://www.town.kamikawa.saitama.jp>

定例会のあらまし

平成24年第7回神川町議会定例会は12月5日から13日までの9日間の会期で開かれ、町政に対する一般質問が行われたほか、町長から提案された平成24年度神川町一般会計補正予算ほか10議案、報告1件、また、請願1件、陳情1件が審議されました。

町政に対する一般質問

一般質問は、12月5日に行われ、6名の議員が町長をはじめ町当局の考えを質問しました。概要は、次のとおりです。



廣川 学 議員

町の公民館の運営について

全国的にファシリティマネジメントの考えから、自治体の窓口改善、施設の有効活用などの見直しが叫ばれています。神川町中央公民館の利用状況及び利用団体について伺う。

次に、公民館で行われるイベント等のチケットについて、神川町や神川町教育委員会の名前が入っていたとしても、公民館ではチケット

販売に関与しない場合があるようですが、なぜ、販売しないのか伺う。

次に、神川町の生涯学習における中央公民館の位置づけ、また、新たな利用法、施策、イベント等について伺う。



神川町中央公民館

答え 教育長

中央公民館は身近な施設として、各種サークル等の育成及び学習活動の支援を実施しています。また、ホール活用の各種イベントの開催、図書室を活用して読書活動を推進するなど、町の生涯学習の拠点施設として、教育、文化、芸術活動の振興を図っています。中央公民館には、ホール、工芸室、講座室A、B、視聴覚室、和室、図書室

があり、昨年度の利用状況は、ホールでのイベント開催17件、工芸室167件、講座室A289件、講座室B273件、視聴覚室26件、和室165件などで合計1,060件、延べ2万2,671人の利用がありました。

次に、利用団体については、公民館事業から発足したサークル団体など定期利用登録されている団体は29団体、延べ491人の方が利用しています。そのほかにも文化協会、体育協会、スポーツ少年団などが利用しています。

チケットの販売については、公民館が事務局をしているイベント実行委員会「企画舎」のチケットのみ販売し、その他の団体のチケット販売については、その売り上げ代金は各団体の所有に属するので取り扱っていません。

次に、公民館は生涯学習の拠点として、また、各種学級、講座等地域に根差した学習活動を支える場としても町民に多く利用されており、その役割は極めて重要な施設です。また、昨年度は図書室、事務室等の改修も行われ、生涯学習課の事務室が中央公民館内に移設しました。これに伴い、それまで休館日であった月曜日及び祝日

の翌日も開館し、図書の貸し出し等を行うなど、公民館利用者に対して利便性の向上を図ってまいりました。今後も町民の多様化する

ニーズに合った公民館活動を推進します。なお、本年度予定行事として、クリスマス映画会等が予定されています。



小井戸 英夫 議員

町の農業振興策について

町の農業も高齢化が進み、後継者不足による農家戸数、売り上げが減少を続け、販売先も多様化し、農協、生協、直売所、自己直売、契約栽培などさまざまなようになっていきます。ひびきの農協の販売額をみても、神川町は平成18年度8億8,000万円余で、平成23年度では5億9,000万円と減少し、児玉郡市内の中で最も高い減少率です。こうした厳しい状況のなか、TTP問題等もあり、今後の農業を大変危惧しています。農業は町の重要産業であり、この町の豊かな自然を守るのも農業の大きな役割です。産業の発展、また豊かな自然環境がなければ町の発展はないと思います。町でも各種農業振興施策を講じられていいると思いますが、町の農業の将来をどう考えているのか、今後の対策等について、町長の考えを伺う。

また、町の取り組みについてですが、最近では以前に比べ農業関係事業等の減少により、町と農家の接点が少なくなっていますが、今後は町と農家、農協が協議する場所をつくっていただき密接な連携が必要だと思います。そうした中で、農家や住民にヒント、提案をしていただきたいと思いますが、町長の考えを伺う。

次に、経済環境課について、一つの課に農政、農業委員会、土地改良、商工、観光、環境とあるので、範囲が広く、各々の対応が隅々まで把握できないのではと心配していますが、町長の考えを伺う。



子どもたちの農業体験(梨の受粉作業)

答え 町長

現在農業を取り巻く環境は、農業後継者不足による担い手の減少、農業従事者の高齢化に伴う耕作放棄地の増加、燃料、資機材の高騰など、厳しい状況が続いています。さらに、TTPへの交渉参加問題については、農業に対する影響だけでなく、全国的な課題として大きな関心を寄せています。こうした中、町の農業については、都市近郊という立地を生かしながら、認定農業者が中心となり、梨、クジャクソウ、キュウリ、ナス、酪農、米麦といったさまざまな農業が行われています。

しかし、町では担い手農家の育

成や新規就農者の掘り起こし、さらに農業生産の拡大などが課題となっています。そのため、生産者と話し合いを行い、課題克服に向けた対応を実践していくことが農業の振興と活性化になると思います。

また、現在、国が進めている地域農業の方向や中心となる経営体を定める「人・農地プラン」の作成を町でも推進してまいります。このプランでは、人と農地の問題解決の手段として、地域の中心的経営体への農地の利用集積を目指しているため、まずは全農家への経営意向アンケート調査を実施し、その後地域での話し合いをしていきます。町では、この話し合いはプラン策定だけでなく、さまざまな問題に対する意見交換の場であると捉え、積極的に取り組んでまいります。また、農業青年会議所をはじめ営農組織との交流を通して話し合いを行い、農業振興に必要な支援を考えてまいります。

今後とも農業を収益力の高い魅力ある産業と位置づけ、生産者が意欲と自信を持ち、安心して営農できる環境づくりを県や農業者団体と進めるとともに、農業経営に必要なものは町単独補助事業も実施し、農業の振興を図ってまいります。

次に、経済環境課について、現状は大変な面もあるかと思いますが、後、課の編成等については、今



大川 喜和子議員

町歌について

国に国歌があるように、町に町歌があっても不思議ではありません。しかし、現在神川町には町歌はありません。合併以前の旧神川町には、良い町歌がありました。とてもすばらしい歌詞で、歌っていると皆の心が一つになり、町への愛着心も湧いてきます。小さくても輝ける町、そして、いずみ幼稚園や神泉中学校の跡地利用で魅力ある町にしている、こういうこの時期に、町民の心をまとめ、その原動力となる町歌をぜひ制定してほしいと思いますが、町長の考えを伺う。

答え 町長

旧神川町では、昭和54年に町歌を制定し、会議等の前に斉唱するなど、普及推進していましたが、旧神泉村では制定されていませんでした。町としても平成18年の合併以来、平成21年度と22年度の地域審議会では町歌について検討しましたが、制定に至りませんでした。

近隣市町の状況は、本庄市と美里町は制定されておらず、上里町は昭和52年に制定し、現在も町民体育祭や消防行事等の際に放送しているとのこと。町歌は町のシンボルで、町民の方が口ずさむことにより、より一体感が強くなる効果も期待できるものと思われる。町民の気持ち第一ですので、ご意見をお聞きしながら機運の高まりを待ちたいと思っています。

職員研修について

役場職員は今年もいろいろな研修に参加したと思います。内容や人数は昨年と変化がないでしょうから、今回は問いません。いくらよい研修を受けても、「ああ、いい研修だった」で終わってしまったら意味ありません。仕事に生かしてこそ価値があると思います。研修報告書をもとに、この1年間、課長を含め上司の方々はどういうふうなフォローアップをしたのか伺う。

答え 町長

町では全職員対象に積極的な研修参加を推進しています。研修内容は、職務に必要な基本知識習得や公務員の自覚や意識改革など多岐にわたる内容を役職に応じて実施しています。一般的な職員研修は、児玉郡市広域市町村圏組合で実施される新採用職員研修から管理職研修までの基本研修や、行政法や法制執務等の専門研修、さらに彩の国さいたま人づくり広域連合で行われる課長研修や講師養成研修などの特別研修に、本年度も参加をさせています。

これらの研修は地方自治法や地方公務員法、地方財政など職員が公務員として必要な基本的知識の習得が主目的です。リーダーシップやコミュニケーション、メンタルヘルスなど一部分野を除いて研修後すぐに業務に生かせるものはありませんが、その中で、研修内容を比較的早く業務に生かすことが出来るものとして、各課所ごとに参加している実務研修などがあり、県や近隣市町と共通の認識を持つことにより、事務の一貫性や諸問題への対応などに役立っていることを認識しています。さらに、町独自で実施しています法律研修やAED研修など、公務だけでなく日常生活においても生かせるものと考えています。

今後も地方公務員としての基本的知識習得を目的とした研修と、業務等に直接結びついた実務研修を大きな2本の柱と位置づけ、職員の意見も取り入れながら進めてまいりたいと考えています。



落合周一 議員

ひとり暮らしの高齢者対策について

神川町高齢者福祉計画によると、平成22年度には神川町の高齢者の割合は21.4%、3,000人超の方がひとり暮らしです。また、これから先10年は急激に65歳以上の方の増加が予想されています。現在65歳以上のひとり住まいの高齢者は、今年の11月時点で448世帯あり、神川町全世帯の約1割弱に当たります。町では地域包括支援センターを中心に、地域の方、各行政区の区長、民生委員による高齢者の見守り活動や福祉計画による施策が行われていますが、ひとり住まいの方に対する施策について伺う。

次に、今年度、高齢者の方が亡くなり発見されるまでに数日かかってしまった例がありました。今後ひとり住まいの高齢者が増えていくため、このような孤独死という事例の増加が考えられます。町ではこのような事例を防ぐための対策を講じているのか伺う。

答え 町長

平成24年10月末現在の社会福祉施設入所者等を除く75歳以上の単身高齢者世帯は236世帯です。高齢者の孤立防止施策として、ふれあいサロンや男性の料理教室、井戸端会議などの交流事業、また、包括支援センターでの単身高齢者宅の訪問に加え、民生児童委員による災害時要援護者の登録促進と

あわせ実態把握や支援強化に努めています。ふれあいサロンは現在12カ所で実施しており、参加者も増加しています。今後も未実施地域の開催の促進や、高齢者の移動が困難な山間地域では、数人で気軽に集まれる場所での食事会やおしゃべりを実施することで、閉じこもり防止を図りたいと考えています。

しかし、各事業に参加できないとか、介護保険サービス等の社会資源を利用していない高齢者の方を対象に、自宅に人感センサーを

設置し、一定期間動きがない場合、地域の方へ連絡する見守りネットワークを計画しています。行政と

地域が連携し、見守りや訪問活動を強化し、地域での支え合い体制を進めてまいります。

災害時における防災備品について

町は災害時に必要な防災備品を数年かけてそろえていくとのことですが、どのような備品をどの程度備蓄するのか伺う。

次に、町長は真空パックされた災害時用の毛布を実際に体験したことがありますが、私は、1カ月ほど前にその毛布を体験する機会がありました。とても冷え込む場所、災害時用の毛布1枚、そして上に掛ける布団1枚で一夜を過ごしました。なかなか体温が暖まらず、寝つけない一夜でした。火災等の個人的災害時にお見舞いとして町から渡される制度もあると聞いています。この時もその災害時用毛布を被災者に贈られるそうですが、事実かどうか伺う。

個人が被災したとき、あるいは災害時にたくさんの被災者が出たときに、その中には高齢者、病氣治療中の方、幼い子供も被災者にいると思われませんが、災害用の毛布だけでは体を暖められるとは考えられません。もう少し暖まれる毛布も必要と思われませんが、町長の考えを伺う。

答え 町長

町ではいつ発生するかわからない災害に備え、今年度より3年計画で災害用備蓄倉庫と災害用備蓄品を整備します。本年度の10月に神川町役場と神泉総合支所に災害用備蓄倉庫を設置しました。

災害用備蓄品については、防災の基本の自助、共助、公助を踏まえ、公助の部分として、地域防災計画に想定されている避難者数2、

515人分の食料及び水、毛布などを計画的に備蓄してまいります。今年度はアルファ米850食分、パンの缶詰360食分、500ミリリットル入りの水のペットボトル480本と毛布200枚、アルミレスキューシート150枚の備蓄を行いました。備蓄品の毛布ですが、日本防災協会で規定された防火性能試験基準を満たした材質などのほかに、真空パック製で長期保存ができ、限られたスペースを有効活用できるのが特徴です。その利用については、災害時の緊急用として一時的利用が主たる

利用目的です。しかし、特に冬季に災害発生した場合に、保温性を重視し、毛布のほかにアルミ材質のレスキューシートなどを重ねて利用するなど、避難者の保温対策が必要と考えています。また、災害弱者と言われている高齢者に対して、健康面に留意した対策が必要と考えます。

じ布団セットや毛布などが支給されるよう定められており、その要綱に基づき社会福祉協議会から支給されます。また、町の災害見舞金規程で、火災の程度に応じ見舞金も支給しています。

なお、災害時用毛布の体験はしていませんが、一時的な避難の利便性で、災害時には、毛布だけではなく状況に応じてストーブ、また、施設等の提供等の対策も必要と考えています。

神川町のマスコットキャラクターについて

町のキャラクターが誕生して1年、いろいろな会場で「神じい、なつちゃん」を拝見しました。イメージとして年をとっても健康で元気な神川町の住人の象徴である神じい、そして明るく元気な神川町の子どもたちの象徴であるなつちゃんだと思いい、活躍を見守ってきました。しかし、舞台上に上がるときなど、視界が悪く、動きが悪いため手を引かれて登場する姿を見るとき、神川町をPRするマスコットとしてどうしても納得することができません。また、神じいとなつちゃんを比べたとき、なつちゃんが大き過ぎるという意見も耳にしますが、今後、着ぐるみを改良、つくり直す考えはあるのか、町長の考えを伺う。

答え 町長

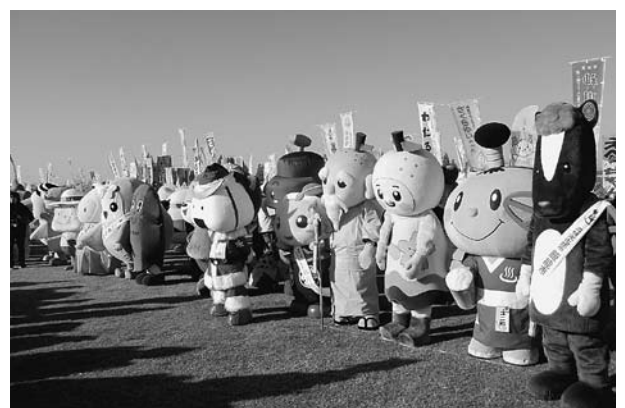
昨秋の発表以来、神じいとなつちゃんの着ぐるみは様々なイベントで活躍し、町民の皆様からも温かい声援をいただいています。その一方で、着ぐるみの歩行に関して、一人で歩けないのは見苦しい

との意見もあります。これは、着ぐるみを着用したときに、自分の息で視界が曇ってしまう、前が見えなくなってしまうということ、改良を指示しています。なお、着ぐるみについては、今年は、夏バードジョンということで多少改良しましたが、今後は暑さ対策以外の改良も行う予定です。

また、町では着ぐるみボランティアの募集を行っており、各種イ

ベントでボランティアの方に神じいとなつちゃんの着ぐるみに入っていたいただき、町のPRをしていただこうというものです。イベントを盛り上げるなど一定のパフォーマンスのできる方に入っていただくことを想定していますので、着ぐるみに入った方が歩行中に転倒することがないように、町としても十分注意をしていかなければならず、改良する必要があると思います。

なお、着ぐるみは1組しかないもので、イベントが重なった時に貸し出しができない現状もあるので、今のキャラクターのイメージを保ちつつ、動きのよい着ぐるみをもう一組つくることも検討してまいります。



ゆるキャラサミットにて



赤羽 奈保子 議員

人間ドックの助成金について

国民健康保険の助成を受けて、毎年人間ドックを受診していた方が、町外から神川町へ転入しましたが、現在神川町では国民健康保険に入後1年以上経過しないと人間ドックの助成は受けられないことになっていますので、前回の受診から2年も経過してしまうとのこと心配されています。一定の線引きは必要だと思いますが、国民健康保険

に加入後、人間ドックの助成を受けられる期間をもう少し短くすることはできないでしょうか。そうすれば受診者も広がり、人間ドックや健診への意識向上にも繋がると思いますが、町の考えを伺う。

答え 町長

人間ドックの助成は、国民健康保険の被保険者の方及び後期高齢者医療被保険者の方を対象に、生活習慣病、その他の疾病の早期発見及び予防を目的に費用の一部を助成しています。受診後の結果は、保健師や管理栄養士が確認し、必要な方には電話や自宅への訪問を行い保健指導を実施するなど、町民の方の健康を見守る手段として活用しています。

町の助成は、被保険者資格取得後1年を経過し、国保税完納世帯の被保険者で30歳以上の方を対象に2万5,000円を上限とし、年度内1回となっています。

県内の受給資格状況は、平成24年度では助成対象年齢を35歳以上としている市町村が最も多く25自治体、30歳以上が19自治体、40歳以上が6自治体、年齢制限なしが4自治体、助成制度なしが9市町村となっています。助成金は1万円から3万円で、対象者数も20人から5,000人と幅があります。神川町でも利用者の拡充を目指し、



神川町国保診療所

本年度から対象年齢を35歳から30歳に引き下げ、また対象者数を40人から100人に増やし、広報誌やホームページなどでお知らせしているところです。

ご質問の加入期間については、秩父郡市では6カ月以上が多いようですが、児玉郡市内の市町では1年以上となっております。近隣と加入期間が異なるのは、好ましいことではないので、近隣市町村や県内市町村の状況も勘案し、適切な運用を図ってまいります。

いろいろの健康について

心身の健康を害し、自ら命を絶つ方が全国で10年以上連続3万人を超え、うつ病が引き金になる例も少なく、深刻な事態になっています。ストレスは自分でも気がつかないうちにたまって病気になるがつてしまうこともあります。そこで、こちらの体温計の導入についてですが、こちらの体温計は、東海大学八王子病院で行われているメンタルチェックを携帯電話用にシステム化したもので、自分の健康状態や人間関係など全13項目の質問に答えると、診断結果がイラストで表現され、ストレスや落ち込み度に応じてイラストが変化するようになっています。埼玉県内でもいくつかの市町でも導入されています。こちらの健康をチェックすることは、うつ病の予防や早期発見にもつながると考えますが、町の考えを伺う。

次に、ゲートキーパーの養成と啓発についてですが、ゲートキーパーとは、自殺対策のため、悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて必要な支援につなげ、見守る人のことで、誰でも声がけ次第でなることが出来る役割です。地域の中で身近に悩んでいる人に声をかけ合っていけるような地域づくりとゲートキーパーの養成について、また、今後こちらの健康についてどのような啓発を行っていくのか、町の考えを伺う。

答え 町長

こちらの体温計の導入についてですが、こちらの体温計は、インターネット上で簡単にこちらの健康のセルフチェックができるシステムで、県内では埼玉県教育局をはじめ深谷市、熊谷市など7市が

導入しています。本町におけるうつ病などこちらの悩みを抱えた人の精神保健相談件数は、平成23年度延べ544人でした。こちらの体温計の導入については、システムの評価を行うとともに、導入済みの市から情報を集め、有効性や費用について調査研究してまいります。

次に、ゲートキーパーの養成と啓発活動については、国内の自殺

者数は14年連続で3万人を超え、最近では特に若年層の増加が目立っており、今や自殺問題は社会全体で取り組むべき最重要課題の一つだと認識しています。

町で行っている啓発活動としては、保健センターが中心となり、年1回の広報活動及び地域自殺対策緊急強化基金を活用した自殺予防啓発チラシ等の作成、精神保健相談などがあります。また、平成23年には疾病予防対策連絡協議会において自殺予防研修会を行い、保健センター及び保育所、幼稚園、小中学校の連携強化を図っています。

また、ゲートキーパーの養成についてですが、町ではゲートキーパー養成研修は開催していませんが、啓発資料の配布等により、悩みを抱えている方に勇気を出して

相談してほしいこと、及び家族など身近な人にはサインに気づくこと、また地域の人には見守り、声かけ、相談につなげることを働きかけています。今後ゲートキーパーの養成については、関係機関の職員や団体に呼びかけを行い、徐々に町民全体に地域での見守り活動の重要性を伝えるなど広めてまいりたいと考えています。

自殺対策は関連する分野の連携協力や親身になって相談できる窓口など包括的な支援が重要ですが、町では町民一人一人がかげがえのない個人として尊重され、誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指し、今後とも自殺の防止や悩みを持つ人及び家族等への支援の充実を図るなど、自殺対策の総合的な推進を行ってまいります。



岸

優 議員

町内小中学校へのエアコン設置について

地球温暖化による猛暑日の増加により、健康面への配慮や熱中症対策、児童生徒の学習意欲向上のためエアコンを設置する学校がふえて

います。今年度の神川中学校の教室温度は、7月の授業日数14日中、30度以上の日数は11日で、うち35度以上が5日あります。9月は授業日数21日中、30度以上が13日、35度以上が4日となっています。学習に適した気温は、夏は30度以下で、25度から28度が最もよいとされており、30度以上になると、授業どころではなく、特に2階、3階と上がるほど気温が高くなります。猛暑日が続くと、建物がやけ込んでおり、朝から30度を超えてしまい、これでは十分な授業は受けられないので、学習に適した温度で授業が受けられるように、エアコンを設置すべきであると考えますが、町長の考えを伺う。

次に、町内各学校のトイレの整備についてですが、各小学校には現在洋式トイレが1カ所ずつ設置をされていますが、便座の保温装置がなく、冬は冷たくて使えません。それでも障がいのある方などはこの洋式トイレを使わざるを得ない状況です。特に、最近は家庭での生活様式が変わり、和式のトイレが使えない子どもが増えています。こうした子どももやむを得ずこの洋式トイレを使っていますが、至急改善し保温装置を設置する必要があります。そして、最近では男の子も小用で座って洋式トイレを使う子どもが増えています。小学校で聞いた話ですが、入学したときに男の子には小用を立ててすることを教えるそうです。昔ではなかったことで非常に驚きました。そのためにも洋式トイレを増やしてほしいという学校側の要望もあり、また、トイレが非常に傷んでいるところもあるので、至急改修する必要があります。昔はトイレは汚れているものと言われましたが、現在はトイレほど清潔にしなければなりません。特に学校のトイレは清潔が第一でありますが、町長の考えを伺う。

答え 町長

小中学校のエアコン設置についてですが、学校施設の整備についてはさまざまな課題を抱えており、

子どもたちが安全な学校生活を送ることができるように、現在最重点施策として学校施設の耐震化に取り組んでいるところです。構造物における耐震化は平成26年度中に完了予定ですが、非構造部材の耐震化や施設の老朽化に伴う大規

模改造という課題を抱えています。しかし、昨今の温暖化傾向は顕著であり、良好な教育環境の整備は喫緊の課題でもあります。教室へのエアコン設置については、猛暑対策におけるハード面の課題の一つとして捉えており、平成27年度までには全校へ設置していきたいと思っています。

各小学校施設については、昭和50年代前半に建築され、三十数年の年月が経過し、過去に行われた大規模改造事業では、内外装工事及び屋根形状改修が中心で、給排水管のような設備改修は未実施のため、経年による劣化が問題となつています。こうしたなか、トイレ設備における社会環境の変化は顕著であり、各家庭や商業施設等のトイレが洋式化や種々のトイレ機能が整備されている状況です。ご指摘の暖房便座については、学校トイレにおける時代の趨勢とし

て、児童生徒の日常使用的役割を十分考慮し、計画してまいります。また、トイレ整備については、関連する老朽化対策と合わせて学校施設整備に関する重要課題として位置づけ、小中学校普通教室へのエアコン設置、校舎の大規模改造等との優先順位をつけて取り組んでまいります。



学校温暖化対策(丹荘小学校校庭の芝生化)

非正規、臨時職員の待遇改善について

町の非正規職員、臨時職員、パート職員を含め、90人を超えています。勤務実態は正規職員と同じで、休日勤務者も46人います。必要な職員まで非正規や臨時職員に置きかえ、正規職員を減らしてきた結果

です。非正規職員、臨時職員は日給や時給であり、保育所で32人中19人が臨時、非正規職員、幼稚園が4人、給食センターは11人の調理員中9人が臨時職員です。非正規、臨時職員の年収も120万から180万円くらいで定期昇給がなく、長期間低賃金のまま、まさにワーキングプアです。特に保育所の非正規職員は、保育専門学校を修了した有資格者です。現在は正職員が足りないもので、非正規職員がクラス担任にもなっています。こうした状態を改善し、安心して働けるために正職員化が必要です。以前にも質問し、担当課長は、低賃金であることを認め、改善したいと答えていますが、町長の考えを伺う。

答え 町長

町では行政改革の推進により職員定数の抑制に努め、その結果、正職員数は平成24年4月1日現在で149名です。このような中で職員の配置については、事務事業を見直しながら人事配置に努めてきました。業務上人員を必要とする課所では臨時職員等を採用して地域住民へのサービスに対応せざるを得ない状況にあり、施設によっては臨時職員等の占める割合が高くなっています。

町の業務を行う上で重要な役割を担っていたく非常勤職員及び臨時職員の採用に当たり、神川町非常勤職員取扱要綱や神川町臨時職員の採用及び勤務条件に関する要綱等に基づき、採用しているところ。その際には勤務日や勤務時間、扶養の状況等を考慮し、

本人の要望に沿った形で採用しています。賃金についても、近隣市町や埼玉県最低賃金の状況、さらには業務内容や資格の有無等を考慮して決定しており、昨年に引き続き本年10月に一部賃金の引き上げを行っており、町の賃金水準や待遇等が他市町に比べ著しく低いとは認識していません。

しかし、今後も非正規職員の補充は実施せざるを得ない状況にあり、臨時職員の待遇改善に関する情報収集に努めながら、働きやすい職場環境づくりなど側面支援を行い、同時に正職員の採用とあわせて臨時職員等の計画的採用を進めてまいります。

※一般質問の全文は、議会事務局の会議録で閲覧することが出来ます。また、町ホームページでも閲覧出来ます。

議案審議の結果

十二月定例会は、平成二十四年度の一般会計及び特別会計の補正予算、条例の改正、人権擁護委員の推薦同意、請願、陳情などが審議され、それぞれ可決されました。

人事関係

◎人権擁護委員に関口ゆり子氏を同意

人権擁護委員候補者に町長から同意案が提出され、満場一致で同意されました。

神川町大字池田177番地1
昭和二十三年二月十七日生

条例など

◎神川町公共下水道の構造の技術上の基準等に関する条例
下水道法の一部改正に伴い、所要の改正を行う。

〈審議結果〉全員賛成 原案可決

◎神川町証人等の実費弁償に関する条例の一部を改正する条例

地方自治法の一部改正等に伴い、所要の改正を行う。

〈審議結果〉全員賛成 原案可決

◎埼玉県市町村総合事務組合の規約変更について

白岡町の市制施行及び蓮田市白岡町衛生組合の名称変更に伴い、規約の変更を行う。

〈審議結果〉全員賛成 原案可決

予算関係

◎平成二十四年度神川町一般会計補正予算(第六号)

歳入歳出それぞれ三、三八二万一千円を追加し、総額を五一億四、七四万五千円とするもの。

○歳入に追加された主な項目

国庫支出金 二〇七万八千円

県支出金 八四万一千円

財産収入 一七万六千円

繰越金 四、四二一萬五千円

諸収入 ▲一、三四八万九千円

○歳出に追加された主な項目

総務費 ▲一五二万九千円

民生費 五五六万三千円

衛生費 九三万円

農林水産業費

▲七二九万五千円

商工費 ▲五五一万四千円

土木費 一七二万二千円
消防費 一、〇六六万四千円
教育費 二、九二八万円
〈審議結果〉全員賛成 原案可決

◎平成二十四年度神川町国民健康

保険特別会計補正予算(第三号)
事業勘定の歳入歳出それぞれ、八、八〇三万八千円を追加し、総額を一七億六、五六九万円とするもの。

事業勘定

○歳入に追加された主な項目

国庫支出金 一九七万一千円

前期高齢者交付金

六、六三五万九千円

県支出金 ▲二二四万九千円

繰入金 一七万一千円

繰越金 二、一七八万六千円

○歳出に追加された主な項目

総務費 一八万九千円

保険給付費 七、六九五万円

後期高齢者支援金等

七五八万五千円

介護納付金 三一九万四千円

諸支出金 一二万円

〈審議結果〉全員賛成 原案可決

◎平成二十四年度神川町介護保険特別会計補正予算(第三号)

歳入歳出それぞれ、二、九二〇万円を追加し、総額を九億一、三九六万一千円とするもの。

○歳入に追加された主な項目
国庫支出金 六八〇万六千円
支払基金交付金

八四六万七千円

県支出金 四四五万円

繰入金 九四七万七千円

○歳出に追加された主な項目

保険給付費 二、九二〇万円

〈審議結果〉全員賛成 原案可決

◎平成二十四年度神川町営バス

事業特別会計補正予算(第三号)
歳入歳出それぞれ、一九四万円を減額し、総額を一、七四五万六千円とするもの。

○歳入に追加された主な項目

繰入金 ▲二三一万五千円

財産収入 三七万五千円

○歳出に追加された主な項目

事業費 ▲一九四万円

〈審議結果〉全員賛成 原案可決

◎平成二十四年度神川町観光事業

特別会計補正予算(第三号)

歳入歳出それぞれ、三、五〇三万三千円を減額し、総額を八、六八〇万四千円とするもの。

○歳入に追加された主な項目
事業収入

▲二、八六二万六千円

繰入金 ▲七一六万四千円

繰越金 二五万七千円

諸収入 五〇万円

○歳出に追加された主な項目

事業費 ▲三、五〇三万三千円

〔審議結果〕 全員賛成 原案可決

○平成二十四年度神川町水道事業
会計補正予算（第二号）

予算第3条において収益的収入
で二〇万三千円を追加し、予算累
計額を三億一、一四三万九千円と
し、支出で三五三万八千円を追加
し、予算累計額を二億九、八二四
万三千円とするもの。

○収入で増額された項目

営業外収益 二〇万三千円

○支出で増額された項目

営業費用 三五三万八千円

〔審議結果〕 全員賛成 原案可決

報 告

○専決処分の承認を求めることに
ついて（平成二十四年度神川町

一般会計補正予算（第五号）

〔審議結果〕 承認

請 願

○総務経済常任委員会

件 名 「緊急事態基本法」の

早期制定を求める意

見書提出を求める請
願

要 旨 国の緊急事態に対す
る法律がないため、

緊急事態基本法を制
定するよう国等へ意

見書を提出すること

請 願 者 道浦正樹

紹介議員 渡辺浩一議員

〔審議結果〕 不採択

陳 情

○総務経済常任委員会

件 名 小浜地内の排水路整備
について

要 旨 小浜五六七番地及び五
四一番地付近の排水路

整備をお願い

陳情者 小浜区長 須賀喜久夫

〔審議結果〕 採 択

第一回臨時会の あらまし

平成二十五年第一回臨時会は、

一月二十三日（水）に開かれ、平

成二十四年度神川町一般会計補正予算
（第7号）ほか2件、議員提案によ

る神川町議会委員会条例の一部改

正ほか2件を審議しました。

議案審議の概要は次のとおりです。

○平成二十四年度神川町一般会計
補正予算（第七号）

歳入歳出それぞれ三、五五六万

円を追加し、総額を五一億七、六

三〇万五千円とするもの。

○歳入に追加された主な項目

繰越金 三、五五六万円

○歳出に追加された主な項目

商工費 三、三九六万四千円

教育費 一五九万六千円

〔審議結果〕 全員賛成 原案可決

○平成二十四年度神川町観光事業
特別会計補正予算（第四号）

歳入歳出それぞれ、三、六〇九

万七千円を追加し、総額を一億二、

二九〇万一千円とするもの。

○歳入に追加された主な項目

事業収入 六万四千円

繰入金 三、三九六万四千円

繰越金 二〇一万六千円

諸収入 五万三千円

○歳出に追加された主な項目

事業費 三、六〇九万七千円

〔審議結果〕 全員賛成 原案可決

○物品購入契約の締結について

契約の目的 神川町学校給食セ

ンター洗浄機購入

契約方法 指名競争入札

契約金額 一、九二一万五千円

契約の相手方

所在地 埼玉県さいたま市北

区土呂町2-73-1

氏名又は名称 日本調理機株

式会社埼玉営業所

代表者職氏名 営業所長 柳谷英希

〔審議結果〕 全員賛成 原案可決

議員提案

○神川町議会委員会条例の一部を
改正する条例

地方自治法の一部改正に伴い、

所要の改正を行う。

〔審議結果〕 全員賛成 原案可決

○神川町議会議規則の一部を改
正する規則

地方自治法の一部改正に伴い、

所要の改正を行う。

〔審議結果〕 全員賛成 原案可決

○神川町議会議政務活動費の交付に
関する条例

地方自治法の一部改正に伴い、

神川町議会議政務調査費の交付に関
する条例を廃止し、本条例を制定

する。
〔審議結果〕 全員賛成 原案可決

議員研修

平成24年11月8日～9日

石川県羽咋市

今回の視察は、「限界集落からの脱却」について、石川県羽咋市を視察しました。

ここでは羽咋市の農林水産課、高野誠鮮氏から、過疎・限界集落における若者の定住促進や農産物の高付加価値化への取り組み、なかでも、市内で最も高齢化率が高い神子原地区の過疎対策について説明がありました。

この神子原地区で採れる米をブランド化するための手段としてローマ法王に米を献上したことや、様々なプロジェクトを実施した取り組みについての話があり、こうした施策により若者のUターンや他県からの移住者も増え、3年間で高齢化率が54%から47・5%に減少したとのこととです。また、公務員としての柔軟な発想と行動力、そして何よりも地域住民との協働のあり方については会議だけではなく

具体的な現場での行動こそ大事だと話されました。現在は、農業・化学肥料・除草剤を一切使わない水稻の「自然栽培」に取り組んでいますが、今後は「自然栽培野菜」の開発にも取り組み、新たなブランド作りをしたいとのこととです。今回の研修は、今後の神川町の農業振興対策に向けて大変有意義な研修でした。



石川県羽咋市にて

議会日誌

10月



1日 定例全員協議会

広域圏最終処分場跡地視察（美里町・神川町）

3日 町男女共同参画審議会

運動会（神川幼稚園・青柳保育所・丹荘保育所）

7日 町民体育祭

議員研修会（吉見町 フレサよしみ）

12日 議員研修会（吉見町 フレサよしみ）

20日 ハートフルデイ2012

本庄地方地域安全大会

21日 コスモまつり

24日 平成25年度税制改正要望来庁（本庄法人会）

25日 神川町身障スポーツ大会

26日 旧議員倶楽部視察研修（群馬県吉岡町、エネルギーパーク）

28日 冬桜まつり

31日 県議長会役員会

11月



1日 定例全員協議会

27日 広域圏協議会

23日 響の里・芸能&ミュージックセルデイ

15日 上里小水力発電視察

6日 第7回定例議会（一般質問等）

5日 総務経済常任委員会

2日 第7回定例議会（条例、補正等質疑採決）

1日 神川幼稚園生活発表会

27日 広域圏協議会

12月



3日 町民文化祭

4日 消防団特別点検

8日～9日 議員視察研修（石川県羽咋市）

11日 15周年記念豊稷まつり

12日 第41回神川町梨共進会表彰式

17日 広域圏消防審議会

21日 斎場運営委員会

23日 郡市議会議員ゴルフ大会

25日 議会運営委員会

26日 利根グリーン運営委員会

27日 神流川沿岸国営事業完工祝賀会

30日 定例全員協議会（12月分）

議会の日程

平成25年第2回神川町議会定例会は3月5日（火）から14日（木）までの会期で開催予定です。